



受検上の配慮にかかる指導者のためのガイダンス・ノート： ケンブリッジ英語検定 リスニングテスト編

受検上の配慮が必要な受検者を対象とするケンブリッジ英語検定リスニングテストについて、以下の資料をご一読いただき、次の事項をご確認ください。

- 配慮対象者用テストの内容およびその指示について受検者が理解していること
- 受検者が利用可能なサンプルテスト資料を用いて練習していること

詳しい情報とサポートについては、お申込み予定の試験センター、またはヘルプデスク (<https://support.cambridgeenglish.org>) にご連絡ください。

どのようなテストがありますか？

大部分のケンブリッジ英語検定リスニングテストには、受検上の配慮が必要な受検者用に以下のような調整されたバージョンがあります。

- 配慮対象者用 (SR) バージョン
- 修正拡大墨字 (MLP) バージョン
- 耳のご不自由な方のための読唇バージョン

リスニングテストの配慮対象者用 (SR) バージョン

リスニングテストの配慮対象者用バージョンはどのようなものですか？

リスニングテストでは、受検者がCDの音声を聞きながら書き取りをする必要がある問題が多くあります。通常のリスニングテストでも「考える時間」と解答の記入・書き写しの時間が設けられていますが、目のご不自由な受検者、その他お身体のご不自由な受検者、学習に特異的な困難を示す受検者は、一般に時間延長を必要とします。

配慮対象者用リスニングテストでは、受検者は特別に録音されたバージョンを聞きます。また試験監督者は、テストの様々な箇所CDを一時停止するよう指導されています。こうすることで、受検者はリスニングテスト中に適切なタイミングで追加の時間を保持できます。

同じ試験センターで他の受検者が受ける通常版とは異なるバージョンのリスニングテストを一般に受けることになる点を、生徒にしっかり認識させてください。特に他の受検者とは異なる問題用紙を使い、異なる録音音声をリスニングすることを説明してください。

注) 配慮対象者用テストは通常版と同じ難易レベルで同じ種類のタスクで構成されます。試験問題指示 (テスト各パート冒頭の指示) と、場合によりタスクが必要に応じて変更または省略されます。

どのようにテストを受けますか？

受検者は別室で、テストを実施する試験監督者1名と一緒に単独でテストを受けます。

目のご不自由な受検者は、以下のような様々な方法での解答記入の許可申請が可能です。

：例、点字タイプライター、点字ノートテーカー（読み取り装置）、解答を伝え代筆者が記入するなど。

「受検上の配慮」の「視覚」の項を参照してください。

<http://www.cambridgeenglish.org/help/special-requirements/>

通常の**印刷された解答用紙**は、配慮対象者用リスニングテストの大部分において使用**しません**。受検者が

- **A2 Key**キー／**A2 Key for Schools**キー・フォースクールズ
- **B1 Preliminary**プレリミナリー／**B1 Preliminary for Schools**プレリミナリー・フォースクールズ
- **B2 First**ファースト／**B2 First for Schools** ファースト・フォースクールズ
- **C1 Advance** アドバンス
- **C2 Proficiency**プロフィシエンシー

のいずれかのテストを受検する場合、リスニングテストの解答は**別の用紙**に書く、または（適切な場合）代筆者に解答を伝えて記入してもらう必要があることを受検者に説明してください。

試験監督者は、受検者が聞く**CD**のすべての音声とスクリプトが記載された特別な冊子を所持しています。試験監督者は試験前にこの冊子を読み、指定された箇所で**CD**を一時停止する練習をするよう指導されています。

同冊子の冒頭には、テストを実施する際の指示が載っています。「**B2 First**ファースト」の配慮対象者用リスニングテストのパート2、3、4に関する試験監督者への指示は以下の通りです。

パート2、3、4

- 受検者が問題文を読み通す時間を十分保てるよう、パート2、3、4の各パートの**前に CD**を一時停止します。スクリプト内のアスタリスク（*）が**CD**を止める箇所を示しています。
- 1回目のリスニング：各パート全体を**CD**を一時停止することなく再生します。
- 2回目のリスニング：スクリプト内の各アスタリスク（*）の箇所で**CD**を一時停止します。受検者が解答を書く時間を十分保てるようにします。
- 受検者が解答をチェックする時間を十分保てるよう、**各パートの終わりにCD**を一時停止します。スクリプト内のアスタリスク（*）が**CD**を止める箇所を示しています。
- **CDの一時停止はその時点で解答が必要なことを必ずしも意味しない、と受検者に説明してください。**
- 一時停止の長さは試験監督者に任されています。ただし受検者が問題文を読んだり、解答を記入したりする時間を十分保てるよう注意します。
- **CDのどのパートも、もう一度再生してはいけません。**

以下に注意してください：

- 受検者は、一時停止なしで各抽出文を一回通しで聞きます。同じ抽出文の2回目のリスニングにおいて、CDを時々一時停止します。
- 一時停止の長さは試験監督者に任されています。試験監督者はCDを指定された箇所で必要なだけ一時停止します。例えば、点字を使用する受検者の場合には情報を見つけるのに長い一時停止が必要なのに対し、そこまで時間がかからない受検者もいます。
- 試験監督者は事前に、「次に進む」（音声再生を再開する）準備が整った時に示す合図を受検者と打ち合わせします。例えば、うなずき、挙手など。

指導者の方はサンプルテスト資料がある場合はそれを使い、生徒が各リスニングテストの配慮対象者用バージョンの形式に慣れるよう指導してください。

現在利用できる配慮対象者用リスニングテストのサンプルテスト資料は、以下のサイトからダウンロードできます。

<http://www.cambridgeenglish.org/help/special-requirements/>

確認しましょう：

- 各テキストの**前に** CDを一時停止します（各テキストは**2回**再生します）。これは受検者が問題文を読み切れるようにするためです。
- 各テキストの**2回目のリスニング**ではCDを途中で**適宜**一時停止して、受検者が問題文を再読したり、書き取りをしたり、解答を記入したりできるようにします。
- 各テキストの**終わりに** CDを一時停止します。これは受検者が解答を記入したり、必要であれば解答をチェックしたりするためです。

以下は「B2 First」のリスニングテスト、パート2に関する試験監督者用冊子からの抜粋で、試験問題指示から始まっています。**試験問題指示とは、各タスクやパートの冒頭にある指示です。**

試験監督者がCDを一時停止する箇所であるアスタリスクに注目してください。

これから、「アドベンチャーレース」への出場を楽しむ女性へのラジオインタビューの一部を聞かせます。問題9-18について、文章を完成させなさい。問題を読む時間を取るため、CDをここで一時停止します。*

インタビュー：

アドベンチャーレースについて聞いたことがありますか？ これは最新のスポーツ競技の一種です。今日スタジオにはスーザン・オリバーをお迎えしています。スーザンはロンドン在住で、ここ10年間ファッションモデルとして活躍しています。*

スーザンは3名のチームメートと一緒に明日オーストラリアの奥地に向けて出発し、そこで「エコチャレンジ」という、まわりにヘビやクモしかいない森林や砂漠を1週間かけて進む480kmの冒険レースに参加します。* **[続く]**

その他にどのような変更点がありますか？

1. 多重マッチング・タスクの試験問題指示の変更

通常、多重マッチング・タスクでは、受検者は5人の話者の話（短い抽出文の形の5つのモノローグ）を聞いて、各話者を6つ（またはそれ以上）の選択肢の1つとマッチングさせます。

「B2 First：ファースト」の配慮対象者用リスニングテストのタスクでは、6つの選択肢が提示されます。「C1 Advanced：アドバンス」のリスニングテストではタスクがより複雑になり、8つの選択肢が2セット提示され同じ音声に対して2つのタスクが出されます。

以下は、「C1 Advanced：アドバンス」の多重マッチング・タスクに関する調整された試験問題指示です。

パート4は2つのタスクで構成されています。これから、複数の話者が新聞について話している5つの短い抽出文を聞きます。

タスク1を読みなさい。問題21－25については、各話者が新聞を読む主な理由をリスト（AからH）の中から選びなさい。例えば話者1の理由が、日常業務中に休憩をとるためと思うのであれば、問題21に対してはAと記入します。*

次にタスク2を読みなさい。問題26－30については、各話者の新聞に対する意見をリスト（AからH）の中から選びなさい。

音声を聞きながらこれら2つのタスクを行わなければなりません。

受検上の配慮版のテストを受ける受検者が為すべきことを確実に理解できるようにするため、このタイプの多重マッチング・タスクの試験問題指示では常に例が示されます。

2. 多重マッチング・タスクのレイアウトの変更

「C1 Advanced：アドバンス」のリスニング、パート4などの多重マッチング・タスクについては、タスク1にタスク2が続く形で問題文が縦書書式（垂直）のレイアウトになっています。

3. 一部セクションの省略

リスニングテストの配慮対象者用バージョンにおいては、以下のセクションが省略されています。

「B1 Preliminary：プレリミナリー」、パート1

「Pre A1 Starters：スターターズ」、パート4

「A1 Movers：ムーバーズ」と「A2 Flyers：フライヤーズ」、パート5

配慮対象者用 修正拡大墨字（MLP）版リスニングテスト

修正拡大墨字（MLP）版リスニングテストはどのようなものですか？

配慮対象者用リスニングテストの修正拡大墨字（MLP）版は、通常のテキスト、調整された試験問題指示（指示）、簡易化されたレイアウト、統一されたフォントを使用しています。

MLP版の調整された試験問題指示は、通常は受検上の配慮対象者用テストの試験問題指示と同じものです。配慮対象者用テストと同じ試験監督者用冊子（スクリプトと一時停止の指定を含む）とCDが使われます。

同じ試験センターで他の受検者が受ける通常版とは異なるバージョンのリスニングテストを一般に受けることになる点を、生徒にしっかり認識させてください。特に他の受検者とは異なる問題用紙を使い、異なる録音音声リスニングすることを説明してください。

注 配慮対象者用テストは通常版と同じ難易レベルで同じ種類のタスクで構成されます。試験問題指示（テスト各パート冒頭の指示）と、場合によりタスクが、必要に応じて変更または省略されます。

修正拡大墨字版リスニングテストの対象者

受検上の配慮対象者用リスニングテストの修正拡大墨字版は、弱視など、目のご不自由な受検者を主な対象者としていますが、その他、以下のような困難を有する受検者も利用することが可能です。こうしたテストは、リスニングテストにおいて受検者が十分な時間を保てるようにすることを目的としています。

修正拡大墨字版の利用が適しているその他の受検者は、以下のような方々です。

- 身体のご不自由なことにより小さな印刷文字を読むことが困難な方
- 失読症（ディスレクシア）など学習に特異的な困難を示す方
- その他の視覚認識上、困難を伴う方
- 耳のご不自由な受検者で録音音声の聞き取りに支障がない場合、指示などを理解するのに時間延長が必要である方

受検上の配慮対象者用リスニングテストの修正拡大墨字版を使う受検者の解答記入方法について

- *A2 Key / Key for Schools* キー／キー・フォースクールズ
- *B1 Preliminary / Preliminary for Schools* プレリミナリー／プレリミナリー・フォースクールズ
- *B2 First / First for Schools* ファースト／ファースト・フォースクールズ
- *C1 Advanced* アドバンス
- *C2 Proficiency* プロフィシエンシー

上記リスニングテストについては、受検者は**別の用紙**に解答を記入しなければなりません。受検者は必要であれば、初めに問題用紙に解答を記入し、後からそれを別紙の解答用紙に書き写しても構いません。受検者は、各解答にはっきりと番号をつけ、また選んだ選択肢を明確にするよう注意します。

また受検者（または試験監督者／代筆者）は、解答用紙の各ページに正しい氏名と受検者番号が記入されていることを確認しなければなりません。

学習に特異的な困難を示す受検者は、代筆者を頼むことは認められませんが、自筆の文字が読み取りにくい場合は筆写（転写）者を依頼することが可能です。つまり、試験の最後に受検者の解答を書き写す（転写する）人です。受検者がすべての句読点も含めて自分の解答を筆写者に読み上げます。筆写者は、文法・スペル・句読点でどんなミスがあっても、受検者の解答を**そのまま**記入します。

Q. 受検者にはアクセス（支援）技術の使用が認められますか？

A. 認められます。受検者は印刷された問題用紙の代わりに（またはそれに加えて）、コンピューター画面拡大ソフトウェア／CCTVなどの読み取り機器の使用も申請できます。リスニングテストにおいては画面読み取りソフトウェアは使用しないことをお勧めします。CDの音に重ねて第二の音源が加わることで、元々のテキストの理解が妨げられる場合があるためです。

解答を記入するためにコンピューターを使う場合、受検者はスペルチェック、文法チェック、シソーラス機能を**使用してはいけません**。試験のセキュリティ上の理由から、基本的には試験センターのハードウェア、例えばPC、ラップトップなどを使用しなければなりません。ただし、すべてのセキュリティ上の要件を順守していることが確認されている場合、必要であれば受検者自身のラップトップの使用が許可されることもあります。

（詳細については試験センターにお問い合わせください。）

失読症など学習に特異的な困難を示す受検者は、電子画面読み取りソフトウェア（拡大機器としての利用以外）の使用や代読者や代筆者を依頼することは**認められません**。

Q. リスニングテストの修正拡大墨字版では、主にどの点が変更されていますか？

A. リスニングテストの修正拡大墨字版すべてにおいて、以下の特徴があります。

1. テスト全体を通じて同じ拡大文字（フォント）サイズが使用されています。文字の大きさ例は以下の通りです。

Arial 18 point bold.

(フォントArial18ポイントの太字)

2. 可能な限り、ページ内のすべての指示とテキストは**左詰め (左揃え)**になっています。
3. 通常、以下の内容は**大文字**になっています。
 - **見出し、タイトル、セクション表示**。例：**PART 1** (パート1)
 - 元の通常版テスト用紙で**太字**になっている**キーワード**
4. **下線**の使用は必要な時のみ、最小限にしています。試験問題指示内で示される問題やページの範囲には通常下線が引かれます。例えば、「**B2 First : ファースト**」のリスニング、パート4での典型的な試験問題指示は以下のようになります。

PART 4

QUESTIONS 24 – 30

You will hear an interview with a teenager called Luke Fuller, who's talking about working as a junior reporter for his local radio station.

For questions 24 – 30, choose the best answer (A, B or C).

パート4

問題24–30

地元のラジオ局でジュニアレポーターとして活動する様子を語る、ルーク・フラーという名前のティーンエイジャーへのインタビュー音声をこれから聞きます。

問題24–30については、最も当てはまる答えを (A、B、Cの中から) 選びなさい。

5. その他のレイアウトの変更

- (a) 多重マッチング・タスクについては、タスクごとに別々の1ページにまとめられています。
- (b) 文章完成タスクについては、問題文が2, 3行にわたる場合、各行が左詰め (左揃え) になります。

例：

On his land, Gerald Sharp 17_____

a large factory for the people who were going to work for him.

(ジェラルド・シャープは自分の土地に、自分の下で働くことになる人々のために大きな工場を17 _____)

耳のご不自由な方のためのリスニングテスト（読唇バージョン）

リスニングテストの耳のご不自由な受検者用バージョンは、障がいの程度が原因で録音音声の聞き取りが難しく、英語での読唇ができる受検者を対象としています。

またこのバージョンは、録音音声よりも読み上げられた方がテスト内容を把握しやすい耳のご不自由な受検者にも適しています。

CDを再生する代わりに、試験監督者がテキスト、数節の文章、会話、抽出文などを受検者に読み上げます。ケンブリッジ英語検定では、受検者は各テキストを3回聞きます。

「受検上の配慮」の「聴覚」の項を参照してください。

<http://www.cambridgeenglish.org/help/special-requirements/>

Q. どのようにテストを受けますか？

A. 受検者は別室で、テストを実施する試験監督者（試験監視員）1名と一緒に通常一人でテストを受けます。

録音音声を再生する代わりに、試験監督者が各問題の指示（試験問題指示）とテキストを受検者に読み上げます。特別版の問題用紙では試験問題指示も異なっています。スクリプト内のアスタリスクは試験監督者が一時停止すべき箇所を示しています。詳細は以下の注意書きをお読みください。試験監督者は、指示事項が掲載された特別な冊子と、受検者に読み上げるスクリプトを所持しています。試験監督者は試験前にこの冊子を入念に読むよう指導されています。次ページが、「**B2 First**：ファースト」の耳のご不自由な受検者用リスニングテストを受検者に実施する際の指示事項になります。

- 1 受検者に問題用紙表紙に書かれた指示を読むよう伝えます。受検者が行うべき内容を理解できたかを確認します。各文章または抽出文の前に一度問題文を読み上げます。
- 2 受検者に問題用紙を参照し確認する時間を与えます。
- 3 自然なスピードで各文章または抽出文を読み上げます。
- 4 各アスタリスク（*）の箇所で停止しながら、再度文章または抽出文を読み上げます。停止する箇所で、受検者が問題用紙を見たり、解答したり、書き取りしたりできる時間を与えます。再開の準備ができた合図を受検者が示すまで、読み上げを再開しないでください。
- 5 停止せずに、文章または抽出文全体を再度読み上げます。

問題用紙のパートごとに、この手順を繰り返します。**ただしパート3ではこの手順が少し異なります。**各抽出文を2回読み上げ、その後**5つの抽出文全体を通して再度読み上げます。**

各パートのスク립ト上にこの指示事項が繰り返し記載されています。各パートの終了後、受検者が解答を記入したり、チェックしたりする時間を取ります。また試験終了後、受検者が別紙の解答用紙に解答を書き写す時間を取ります。

受検者には以下の点を確認してください（2回目の文章のリスニング時）：

適切な箇所でテキストを「中断する」ために一時停止が挿入されますが、その時点で解答が必要なわけでは必ずしもありません。受検者は一時停止の間、解答を記入しなければならない場合、または解答しない場合もあります。

注意書き：

- 試験監督者は、一時停止することなく各抽出文を一度読み上げます。
- 試験監督者は2度目に、同じ抽出文を時々一時停止しながら読み上げます。
- 最後の3回目に、試験監督者は一時停止せずに同じ抽出文を読み上げます。
- 一時停止の長さは試験監督者に任されています。情報を見つけるのに時間がかかる受検者がいる一方、それほど時間がかからない人もいます。
- 試験監督者は事前に、次に進む（つまり、読唇を再開する）準備が整った時に示す合図を受検者と打ち合わせします。例えば、うなずき、挙手など。

サンプルテストの実践によって実施内容を把握するよう、先生方は生徒に指導してください。

現在利用できる耳のご不自由な方のためのリスニングテスト（読唇バージョン）のサンプルテスト資料は、以下のサイトからダウンロードできます。

<http://www.cambridgeenglish.org/help/special-requirements/>

同じ試験センターで他の受検者が受ける通常版とは異なるバージョンのリスニングテストを一般に受けることになる点を、生徒にしっかり認識させてください。特に他の受検者とは**異なる**問題用紙を使い、**異なる**録音音声リスニングすることを説明してください。

注) 配慮対象者用テストは通常版と同じ難易レベルで、かつ同じ種類のタスクで構成されています。試験問題指示(テスト各パート冒頭の指示)と、場合によりタスクが必要に応じて変更、または省略されます。

Q. その他にどのような変更点がありますか？

一部のテキストの変更

一部の対話、特に2番目の話者がほとんどしゃべらない場合や主たる話者が話す内容を短く「促している」場合など、その対話はモノログに変更される場合があります。

試験問題指示にはこうした変更点を反映させます。例えば試験問題指示の出だしは、「これから...へのインタビューの一部を聞かせます」に代わり、「これから...が話す内容の一部を聞かせます」になります。

その他のレイアウトの変更

受検者が複数の短い抽出文を5つ以上の選択肢とマッチングさせる多重マッチング・タスクでは、例が提示され、タスクは横長書式ではなく縦長書式で表示されます(上記の「配慮対象者用/修正拡大墨字版」の注意書きを参照)。

一部セクションの省略

耳のご不自由な受検者のためのリスニングテストでは、以下のセクションが**省略**されます。

「C1 Advanced アドバンス」パート3

「C2 Proficiency プロフィシエンシー」パート4

Q. 耳のご不自由な受検者は、英語を話す人の読唇をどのくらい練習すべきですか？

A. 特に聴力がほとんどない受検者の場合、英語を話す人の読唇に慣れることが最も重要です。

受検者は、先生が読み上げる通常の試験問題指示の読唇を十分に練習する必要があります。受検者

が実際のテストを実施する試験監督者と会って実践することも可能です。お申込み予定の試験センターにお問い合わせください。

参考までに、試験監督者に配布される指示事項を以下に提示します。生徒と実践する際にこれらの指示を念頭に置くとよいでしょう。

- 耳のご不自由な方のためのリスニングテストの実施にあたっては、静かな別室を用意します。光（例えば、窓からの光）を背にした位置に立たないようにします。この状況では唇が受検者から見えにくくなるためです。一度に複数の受検者への試験を実施してはなりません。
- 試験監督者が男性の場合、唇がはっきりと見える状態で、あごひげや口ひげで隠れないよう注意しましょう。
- 受検者にあなたの唇が見えやすいよう受検者の近くに立ちます。しかし、受検者がスク립トを見たり、スク립トに気を取られたりするほど近すぎないようにしましょう。
- スクリプト内のアステリスク（*）は、受検者が問題文を読んだり、解答を記入したりチェックしたりする時間を取るための一時停止の箇所を示しています。再開する準備ができた時に示す合図を事前に受検者と決めておきましょう（例、挙手する）。

よくある質問

Q. どの程度の時間延長が認められますか？

A. 受検上の配慮対象者用、修正拡大墨字版、耳のご不自由な受検者のための（読唇版）リスニングテストのすべてのバージョンは、必要とされる延長時間を与えることを目的としています。受検者が試験を続ける準備が整うまで録音音声を一時的に停止したり、読み上げを止めたりする長さは、試験監督者の判断に任されています。一つの問題に長い時間をかけすぎると、録音音声全体の意味が分からなくなるおそれがあることを受検者にアドバイスしてください。

Q. 解答の記入方法にはどのようなものがありますか？

A. 以下の受検上の配慮対象者用、修正拡大墨字版、耳のご不自由な受検者のための（読唇版）リスニングテスト：

- *A2 Key / Key for Schools* キー／キー・フォースクールズ
- *B1 Preliminary / Preliminary for Schools* プレリミナリー／プレリミナリー・フォースクールズ
- *B2 First / First for Schools* ファースト／ファースト・フォースクールズ
- *C1 Advanced* アドバンス
- *C2 Proficiency* プロフィシエンシー

については、受検者は**別紙の白紙**に解答を記入しなければなりません。

ケンブリッジ大学英語検定機構が提供する、その他の英語の試験については、受検者は通常の解答用紙または別紙の白紙への記入を選べます。別紙の白紙を使う場合、受検者が各解答にはっきりと番号を付け、また選んだ選択肢を明確にすることが重要です。

目のご不自由な受検者は、点字キーボード、コンピューター、ワープロを使用したり、解答を伝え代筆者に記入してもらうことが可能です。点字ノートテーカー（読み取り装置）を使う生徒の場合、試験で自分の装置を使うには許可申請が可能です。

受検者（または試験監督者／代筆者）は、解答用紙の各ページに受検者の氏名と受検者番号が記入してあるかを確認しなければなりません。また各解答の冒頭には、対応する問題番号を記入してください。

学習に特異的な困難を示す受検者は代筆者を頼むことは認められませんが、自筆の文字が読み取りにくい場合は筆写（転写）者を依頼することが可能です。つまり、試験の最後に受検者の解答を書き写す（転写する）人です。受検者がすべての句読点も含めて自分の解答を筆写者に読み上げます。筆写者は、文法・スペル・句読点でどんなミスがあっても、受検者の解答を**そのまま**記入します。

Q. スクリプトの各アステリスク（一時停止）では、解答が求められているのですか？

A. そうではありません。配慮対象者用と耳のご不自由な方のための（読唇版）リスニングテストの両バージョンにおいて、アステリスクはテキストの適切な場所での一時停止として挿入されています。通常、一時停止はテキストや段落の短い「かたまり」の終わりに挿入されているので、話者が語る内容の意味は中断されません。

一時停止は解答が求められていることを必ずしも意味しません。解答が必要ない場合もありますし、複数の解答が必要な場合もあります。一時停止の目的は、あまりに長いテキストの「かたまり」を聞かせて受検者の負担にならないようにすることです。

Q. 生徒の点字による解答はどのように転記されますか？

目のご不自由な受検者については、試験センターが解答の転記を手配します。通常は試験後に書き取りを行うことで対応します。

画面読み取りプログラムには、点字からの文字翻訳機能を持つものもあります。この方法で転記を行う場合、受検者は文書化された内容が完全で正確であるかを確認することが求められます。

Q. スペルミスは減点になりますか？

A. 通常版および受検上の配慮対象者用のリスニングテスト両方の採点において、スペルミスは減点となりますが、**A2 Key** キー／**A2 Key for Schools** キー・フォースクールズ、**B1 Preliminary** プレリミナリー／**B1 Preliminary for schools** プレリミナリー・フォースクールズ、**B2 First** ファースト／**B2 First for Schools** ファースト・フォースクールズなど一部のテストでは小さな間違いは減点対象になりません。

Q. 二人の話者が登場する時に、耳のご不自由な方のための読唇版リスニングテストはどのようになりますか？

通常、対話はモノログに変更されます（上記参照）。しかし、**Pre A1 Starters** スターターズ、**A1 Movers** ムーバーズ、**A2 Flyers** フライヤーズ、**A2 Key** キー／**A2 Key for Schools** キー・フォースクールズ、**B1 Preliminary** プレリミナリー／**B1 Preliminary for Schools** プレリミナリー・フォースクールズの読唇対応リスニングテストでは、短い対話を二人の試験監督者が読み上げます。

Q. リスニングテストで手話は認められていますか？

A. ケンブリッジ英語検定では手話は認められていません。

認められていない理由は、総じて手話は口頭による言語とは異なるものであり、耳から聞く言語とは異なる文法を持つなど独自の発展を遂げているものだからです。例えば、[英国手話](#)と[米国手話](#)はかなり異なっており、相互に理解することはできません。

配慮対象者用リスニングテストの準備に関する先生方へのアドバイス

1. 通常版のリスニングテストに当てはまるアドバイスの大部分は、配慮対象者用バージョンに向けて受検者を準備させるうえでも有効で役立ちます。
2. 入手できるサンプルテストを使って生徒に実践させましょう。サンプルテストは点字打刻装置を使って点字に変えたり、コンピューターに接続した点字ディスプレイによって点字で表示したりすることができます。
3. 生徒はリスニングテストのパート数を把握し、一つの問題に時間をかけすぎないように注意する必要があります。
4. **CD** が一時停止される箇所、また耳のご不自由な方のためのバージョンで試験監督者が一時停止する箇所のすべてで解答を記入する必要があるわけではないと生徒に認識させておいてください。ただし、問題に対する解答を各パートのスクリプトのどこから見つけるかを練習しておくことは生徒にとって有益です。